

東京都日野市東平山 3-1-19

社会福祉法人 大家族

特別養護老人ホーム シンフォニア

## ～ごあいさつ～

### 秋の夜長に考えること

秋が深まり、夜間には、肌寒さを感じる日も増えてきました。その分、澄んだ空気を胸いっぱい味わえます。先日、立川昭和記念公園で、色とりどりに咲き誇るコスモスを堪能できました。まさに、日本の四季、「秋のページ」編というところです。

さて、日頃の交流があり、先日もハロウィンの行事に訪れ、利用者の皆さんからお菓子をいただき喜んでいた保育園ひよこハウス豊田、ひよこハウス多摩平の子どもたちは、当施設でも演奏されるバイオリニストの安田さんの指導で、ホール「ムジカこどもアート」の2Fフロアを使って、バイオリンのレッスンを始めました。保育園の子どもたちが、バイオリンに触れることは、とてもユニークな取り組みです。当施設の利用者の皆さんに、日頃、楽しく交流していただいているひよこハウスの子どもたちには、たくさんの心ときめかす思いを体験をして、将来、いろんなことにチャレンジできる大人に、そして次の「三人目のレンガ職人」のような「思い」を持てる人になってほしいと考えています。

こんな話です。教会の工事現場で3人のレンガ職人が働いていました。そこに通りがかった旅人が、「何をしているの？」と彼らに聞きました。一人目の職人は、「見ればわかるだろう。レンガを積んでいるのさ。ああ大変だ」、二人目の職人は「レンガを積んで、壁をつくっている。この仕事は、給料がいいからやっているんだ」、三人目の職人は「教会をつくっている。完成すれば、多くの人が喜んで祈りを捧げられる。こんな素晴らしい仕事に就けて、とても幸せです」と答えたという話です。三人目の職人のような人が増えると、社会が暖かくなり、生きていくことが楽しくなります。

茂木健一郎という脳科学者は、脳には利他的な回路があり、他人のために何かをすることで、人は喜びを感じる。また「他人のために何ができるだろうか」と他人の立場に立つことで、他人というものがよく見えてくるし、自分と直接かかわりのない世界をイメージし、「自分は社会に何ができるか」を改めて考えるようになると言います。

これから、当施設の職員に、どれだけ多くの三人目のレンガ職人を生み出せるかを意識した運営をしたいと思います。

子どもから大人までがふれあう当施設では、自分の仕事に誇りを持ち、利他的な脳内回路を回せるような取り組みを大切に、そういう目で介護や保育の内容を見つめたいと思っています。

社会福祉法人 大家族  
理事長 佐々木 榮一

～イベント紹介～



Happy Halloween!



H27.10.30  
ひよこ交流  
『ハロウィン』



ひよこハウスの園児たちとの交流がありました。  
歌と踊りを披露し、利用者様と握手やハグをしたり、お話をしたりと園児とのふれあいの時間が持たれました。

ハロウィンといえば“Trick or Treat”  
(トリック オア トリート)お菓子をくれなきゃイタズラするぞ！

園児達は一斉に元気な声で利用者様に唱えていました。



園児ひとりひとりお菓子をもらい笑顔で「ありがとう」と言ってシンフォニアを後にしました。

